

不活化ポリオワクチンの導入について

保健予防課

平成24年9月1日から、ポリオの定期予防接種は不活化ポリオワクチンを用いた個別接種に変更する。

1 経緯

現在、予防接種法に基づく急性灰白髄炎（ポリオ）の予防接種には経口生ポリオワクチンを用いており、極めてまれであるがワクチン関連麻痺が発生することがある。

このため国は、ワクチン関連麻痺が発生するおそれのない不活化ポリオワクチンの導入に向け、有識者会議「不活化ポリオワクチンの円滑な導入に関する検討会」において議論を続けていた。

本年4月27日に単独の不活化ポリオワクチンが薬事承認され、国は9月1日からポリオの定期予防接種のワクチンを不活化ポリオワクチンに一斉に切り替えることを、各自治体へ通知した。

なお、予防接種実施規則等の省令改正は7月末見込みである。

2 接種方法

対象年齢：生後3月～90月に至るまでの間にある者

1期初回接種：3回（20日から56日までの間隔）

1期追加接種：1回（初回接種終了後6月以上の間隔）＊

（＊追加接種は、現在国内臨床試験中のため、現時点では定期接種ではない）

接種量0.5ミリリットルを皮下に注射する。

旧ワクチン（経口生ポリオワクチン）を1回受けている場合は、不活化ポリオワクチンの皮下接種を1回受けたものとみなす。

3 対象者数

ワクチン切り替え時（平成24年9月）の接種対象者数 約10,100人
（延接種件数 約28,200件）

4 経費

予防接種委託費等 約209,000千円
接種単価 11,062円/回

5 実施場所

区内契約医療機関（特別区の契約医療機関であれば相互委託により接種可能）

6 周知方法

対象者へ個別送付（8月下旬予定）

広報かつしか、区ホームページ

ポリオの予防には、 ポリオワクチンの 接種が必要です。

不活化ポリオワクチンの導入は、
2012(平成24)年9月を予定しています。

- ◆不活化ポリオワクチンを可能な限り迅速に導入できるよう取り組んでおり、2012(平成24)年9月の導入を予定しています。
- ◆不活化ポリオワクチン導入後は、定期予防接種における生ポリオワクチンの使用を中止する予定です。

不活化ポリオワクチンの導入まで、
ポリオワクチンの接種を待つことは、おすすめできません。

- ◆ポリオの流行のない社会を保つためには、ワクチンの接種が必要です。
- ◆不活化ポリオワクチンを導入するまで、ポリオワクチンを接種せずに様子を見る人が増えると、免疫をもたない人が増え、国内でポリオの流行が起こってしまう危険性があるため、お住まいの市町村がご案内する時期に接種を受けることをおすすめします。

ポリオワクチンを接種することが、
ポリオを予防する唯一の方法です。

- ◆日本では、2000年にポリオの根絶を報告しましたが、世界には、今でも流行している地域があり、渡航者などを介して感染はどの国にも広がる可能性があります。
 - パキスタン、アフガニスタンなどの南西アジア、ナイジェリアなどのアフリカ諸国では、今でも流行がみられます。
 - いったんポリオが根絶された中国やタジキスタンなどでも、最近流行が起こったことが報告されています。
- ◆このため、ポリオの根絶に向けて、世界中でワクチンの接種が行われています。
 - きちんとワクチンを接種し、ほとんどの人が免疫をもてば、海外でポリオが流行しても、国内での流行を防ぐことができます。

不活化ポリオワクチンの定期接種は、 このように行います。

■接種方法が変わります

- ◆生ポリオワクチンは経口接種（口から飲む）でしたが、不活化ポリオワクチンは皮下接種（皮下に注射）となります。

■4回（初回3回、追加1回）の接種が必要です

- ◆生ポリオワクチンは、2回接種でしたが、不活化ポリオワクチンは、初回接種として20日以上の間隔をおいて3回、また追加接種として初回接種終了後6か月以上の間隔をおいて1回、合計4回の接種が必要です。
- ◆海外等で既に不活化ポリオワクチンを1～3回接種されている方については、不足分の接種を受けることができます。

■初回接種は生後3か月から12か月の間に受けましょう

- ◆標準的な初回接種の接種年齢は生後3か月から12か月です。
- ◆生後90月（7歳6か月）に至るまでの間であれば、過去に生ポリオワクチンを受けそびれた方も、不活化ポリオワクチンの定期接種を受けていただくことが可能です。

■通年で接種できるようになります

- ◆生ポリオワクチンによる定期接種は、多くの市町村で春・秋に行われてきましたが、不活化ポリオワクチン導入後は、多くの市町村で通年接種が可能になります。
- ◆多くの市町村では、市町村（保健所）での集団接種から、医療機関での個別接種に変更される予定です。

不活化ポリオワクチン導入前に 1回目の生ポリオワクチンを接種した方は、 2回目以降は不活化ポリオワクチンを 受けることとなります。

- ◆生ポリオワクチンを1回接種した方は、2012（平成24）年9月以降に不活化ポリオワクチンを3回接種することとなります。
- ◆生ポリオワクチンをすでに2回接種された方は、不活化ポリオワクチンの追加接種は不要です。

4種混合ワクチン（DPT-IPV）の導入は、 2012（平成24）年11月を目指しています。

- ◆ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオワクチン（DPT-IPV）の4種混合ワクチンは、薬事承認申請が行われており、現在、薬事審査や供給の準備などが進められています。
- ◆4種混合ワクチンも可能な限り迅速に導入できるよう取り組んでおり、2012（平成24）年11月の導入を目指しています。

どうすればいいの？ポリオワクチン

単独の不活化ポリオワクチン導入（平成24年9月1日予定）から、4種混合ワクチン導入までの接種方法

ポリオワクチンを

まだ1回も
受けていない

生ポリオワクチンを

すでに1回
受けている

不活化
ポリオワクチンを

1～3回
受けている

生ポリオワクチンを

すでに2回
受けている

不活化ワクチンを

合計4回

受けてください

不活化ポリオワクチンは、
初回接種3回＋追加接種1回、
合計4回の接種が必要です。

不活化ワクチンを

あと3回

受けてください

生ポリオワクチンを1回接種
されている方は、合計3回の
不活化ポリオワクチン接種が
さらに必要です。

不活化ワクチンが

合計4回となるよう

残りの回数を
受けてください

国内未承認の不活化ポリオ
ワクチンの接種を開始されて
いる方も、不足分を定期接種で
受けることができます。

不活化ワクチンは

必要

ありません

生ポリオワクチンをすでに2回
接種されている方は、さらに
不活化ポリオワクチンを接種
する必要はありません。

★使用する不活化ポリオワクチンは、単独の不活化ポリオワクチンです。

★不活化ポリオワクチンは、初回接種として20日以上の間隔を置いて3回、追加接種として初回接種終了後6か月以上の間隔を置いて1回、合計4回の接種が必要です。

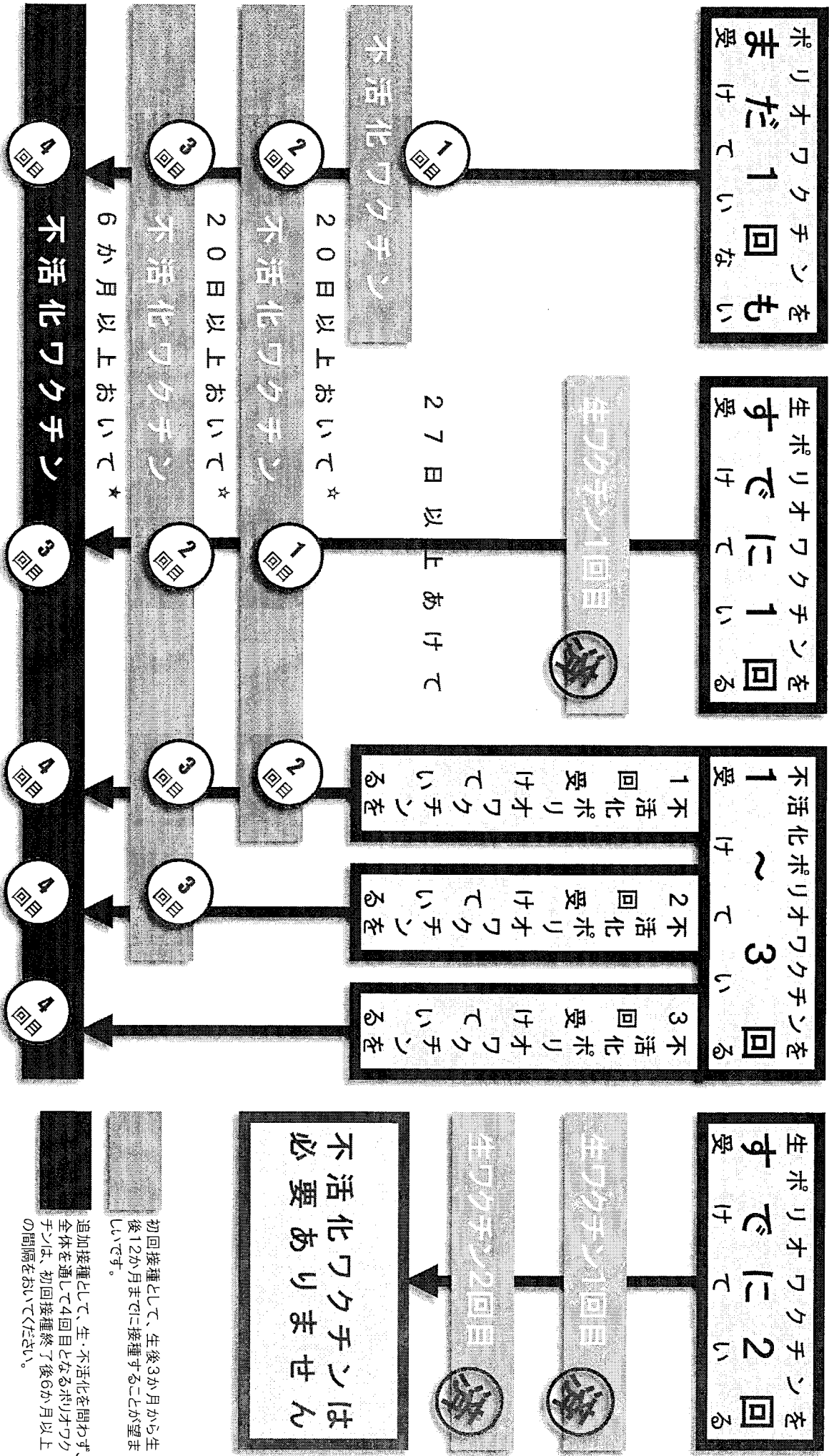
★追加接種とは、生・不活化を問わず、全体を通して4回目となるポリオワクチンです。

★3種混合ワクチンは従来通り受けてください。

※平成24年9月1日の導入時点では、4回目の追加接種は定期接種対象外です（現在、国内臨床試験を実施中のため、データが整い次第導入予定）。

どうすればいいの？ポリオワクチン

単独の不活化ポリオワクチン導入（平成24年9月1日予定）から、4種混合ワクチン導入までの接種ステップ



初回接種として、生後3か月から生後12か月までに接種することが望ましいです。

追加接種として、生不活化を問わず、全体を通して4回目となるポリオワクチンは、初回接種終了後6か月以上の間隔をおいてください。

☆20日以上おいて(20日から56日までの間隔をおくことが望ましいです) ☆6か月以上おいて(12か月から18か月の間隔をおくことが望ましいです)

※平成24年9月1日の導入時点では、4回目の追加接種は定期接種対象外です(現在、国内臨床試験を実施中のため、データが整い次第導入予定)。